

# JICAのラオス日本センターで 学生インターンシップの第1号に

古谷 麻里香 (経済4)

## 体験記

### 片言のラオス語で語りかけ 折り紙、盆踊り教え日本紹介

国際協力機構(JICA)のラオス日本人材開発センター(ラオス日本センターJLC)でこの夏、古谷麻里香さん(経済学部国際経済学科4年次)がインターンシップを行った。アジア地域の途上国9カ国10地域に設置されている日本センターは、市場経済を担う現地での人材育成を目的し、現地と日本との相互情報発信を行う。学生インターンを受け入れるのはラオス日本センターが初めてで、その第1号が古谷さん。古谷さんは業務の中で、国際交流の補助や日本の紹介を行った。体験記を紹介しよう。

この夏、飯沼健子准教授のご紹介でラオス国立大学内のラオス日本センター(LJC)での相互理解という部署でインターンシップを行いました。期間は9月1日から12日間。1日のスケジュールは朝8時に送迎バスに乗り、1時間のランチタイムの長期休暇期間だった。



現地スタッフと、民族衣装の古谷さん(右から2人目)

「東京音頭」と「炭坑節」は、昨年行われたイベントに参加したラオス人が踊りを覚えていたので私が教えることもなく練習は進みました。でも「アンパンマン音頭」は、初めてだったので、身ぶり手ぶりで30人ほどの参加者に教えました。海外に行くとき自分がいかに日本の文化を知らないかと折り返し教室では、英語

うしてそんなにラオス語がうまく話せるのか」と聞かれました。折り返し教室では、英語



▲ 英語とラオス語、身ぶり手ぶりで折り紙を教える

ので、現地の学生とかかわる機会が少なかつたのですが、ラオス人スタッフと一緒に行動することでも多く、ラオス語を教えるも多かったり、一緒に食を取ったりしました。スタッフは全員英語を話しますが、ラオス人同士の会話はやはりラオス語。私は何を話しているのかまったくわからなくなりました。そこで、簡単なラオス語を覚えて、英語で聞かれてもラオス語で答えるようにしました。

使った言葉は、「おいし」「おなががいっぱい」「また明日」などです。ラオス語は発音しやすいのか、話すたびに「ごめんなさい」と話せる子どもたちがいっぱい。折紙「2回」など折り紙をする際に必要な単語を教えるも楽しかったです。9月の終わりに、LJCの主催で日本文化に関するイベントが予定されていたので、学生やスタッフが集まって盆踊りとラオスの踊りを練習しました。私自身、盆踊りを踊ることがなかったのですが、空いている時間にビデオを見て練習してから参加した。また違うラオスを発見しました。



▲ “完成品”を手に喜ぶ小学生

海外でインターンシップをするのと同時に、そこで生活するという得難い経験でした。あつという間でしたが、自分自身が大きく成長し、ますますラオスが好きになった。「濃い」2週間でした。

### 曹在雄さんが「親切心」語り1位に 留学生日本語スピーチコンテスト

第9回専修大学留学生たらず出でこない。取って礼も言わずに走り去った。これにもびくびくした。スピーチコンテスト。しかし日本では拾った。コンテストで7人の留学生がて届けてくれる人がいもこの先、財布を拾った賞品の図書1位は曹在雄さん(経済)で、うれしかった。あるけるだろう。「親切心」うか悩んでいます」と喜びを語った。

「親切心」は、今日は自分が通学路は、人から人へと広がって語った。2位以下の入賞者は次の通り。敬称略。

- 〈2位〉李イェリン(韓国・文学部特別聴講生)
- 〈3位〉李承娟(韓国・商学部特別聴講生)
- 〈入賞〉朴柱俊(韓国・経営学部特別聴講生)
- ▽鄭昭辰(韓国・経営)
- ▽鄭昭辰(韓国・経営)
- ▽鄭昭辰(韓国・経営)
- ▽鄭昭辰(韓国・経営)
- ▽鄭昭辰(韓国・経営)



▲ 参加者と審査員のみなさん



1位となった曹在雄さんのスピーチ

### 好評のうちに終了 Slim教授の「やさしい英語による経済学講座」



11月8日から「宗教学講座」開講中

第137回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」(5回シリーズ・生田キャンパス)は11月1日で終了した。講師はスティーブン・リム経済学部客員教授(ニュージーランドのワイカト大学教授)。

MIZUHO 三井住友銀行  
あなただけの資産運用を「みずほ」がバックアップ。  
豊富なラインアップで、お客さまの資産運用ニーズに、「みずほ」はおこたえます。  
●ご相談はお近くのみずほ銀行へ。

三井住友銀行  
LEAD THE VALUE  
SMFG  
確実にやるのはどこでもできる。確実に速くやるからこそ「価値」になる。